

「わたしを愛していますか」

ヨハネの福音書 21 : 14 - 17

March.31.2024

ヨハネの福音書 21 : 14 - 17 (パワポ)

Preface

死よりよみがえられたイエス様が弟子たちに現れなされて、ともに食事をされました。

そして食事が終わると、イエス様は、ペテロに同じ質問を3回もされます。

「あなたはわたしを愛していますか。あなたはわたしを愛していますか。あなたはわたしを愛していますか。」

皆さんは、このペテロへの質問をどのように捉えるでしょうか？

人によっては、十字架に架かれる前のイエス様のことを3回も否定したペテロへのお返しと言いましょか、ペテロへの戒めのためだと解釈することもあります。が、「本当にそうかな？」と思います。

私自身も聖書を読み始めた当初は、その解釈に近いように感じていたこともありましたが、イエス様は、「あなた、私のこと3回も知らないと否定したよね！ それなのに、まだわたしのことを愛しているって言える？ 本当に君は、わたしのことを愛しているのかい？」と、ネチネチと皮肉るような語調でお話しされる方ではないですよ。

このイエス様のペテロへの語り掛けから、私たち一つ大事なことを考えなければならぬと思います。

それは、「わたしのこと愛してるかい？」という質問は、「わたしは、あなたのことを愛しています」という告白だという事実です。

Part One

私が大学生の頃、今となっては、このイエス様の語り掛けを理解させて下さるための特別な貴重な経験だと思っておりますが、ある女性から、「あなた、私のこと好きでしょ？」と、ちょっと恥ずかしいような、はにかんだような笑顔で聞かれたことがありました。

その時、直ぐに感づいたのが、「あ、この人、僕のこと好きなんだ」ということでした。

で、その感づきは間違っていないでした。

なぜならば、今その女性と結婚して、もう23年にもなるからです。

例えば、恋愛している男女がいたとします。

女性からでも、男性からでも、どちらでも構いませんが、「君、あなた、私のこと愛してる？」と聞かれた時、その質問をされた方は、直ぐに感じ取るこ

とが出来るでしょう。

「ああ、この人は、僕のこと、私のことが好きなんだ。愛してくれているんだ」ということをです。

それを聞くということは、「私はあなたのこと好きよ。愛してるよ」という告白ですね。

そんな直ぐ感じますよね。

私が好きでも愛してもいない人に、「私のこと愛してる？」なんていう質問は、まあ普通しないと思います。

子どもに対してもそうですし、孫に対してもそうですし、夫や妻に対してもそうですよ。

「私のこと好き？愛してる？」、「パパ、ママのこと好き？愛してる？」、「おじいちゃん、おばあちゃんのこと好き？愛してる？」と聞く時は、私が愛している人に聞くのであって、私が愛していない、心に抱いていない人に、「僕のこと、私のこと好き？愛してる？」なんて質問はしないですよ。

ということは、イエス様がペテロに3回も、「あなたは、わたしを愛していますか。あなたは、わたしを愛していますか。あなたは、わたしを愛していますか」とお聞きになったのは、ペテロがイエス様を否定したにもかかわらず、3回も否定したにもかかわらず、呪いの言葉を、悪口を口にしながら3回もイエス様のことを否定したにもかかわらず、イエス様は、ペテロを愛することを放棄出来なかったということです。

「あなたは、わたしのことを愛していますか。わたしはあなたを愛しています。わたしはあなたを愛しています。わたしはあなたを愛しています」というイエス様の愛の告白が、今日のこの聖書箇所のコアとなる内容だと思います。

Part Two

このペテロへの質問と、この質問を通したイエス様の愛の告白は、今この場にいる私たちへのもでもあります。

イエス様は、私たちに全く同じ質問と、全く同じ愛の告白をされます。

ではなぜ、私たちにも同じ質問をされるのでしょうか？

愛をお受けになりたいからです。

私たちの愛をお受けになりたいからです。

それではなぜ、私たちの愛をお受けになりたいのでしょうか？

私たちを愛しておられるからです。

イエス様ご自身が愛しておられなかったら、愛して欲しいとは思いません。

私が愛していない人が、私のことを「愛している」と言ったら、それほど負担なことはいりません。

行き過ぎると嫌悪感まで覚えますし、逃げなければならなくなり、ストーカー

一だとまで感じてしまうかもしれません。

イエス様が「わたしを愛していますか」とお聞きになるのは、愛しておられるからです。

愛しておられるから、愛されたいと思い、質問をもって愛の告白をされるのです。

もしかすると、皆さんの中に、「いや、見えない神のかたちなるお方の愛の告白なら、もっと分かりやすく『わたしはあなたを愛している』という宣言だけでいいじゃないか」とお思いになる方もいらっしゃるかもしれませんが、愛は、その過程において一方通行のような時がありますが、必ずや双方向に行き交うようになるのが愛ですよ。

イエス様は、独断的な宣言のような、愛のように見えて愛ではない、突き詰めてみると独善的な一方通行の片思いを無理矢理受け止めるように強いるのではなく、質問という形を用いて、相手を尊重し、相手の意思に、選択に寄り頼み期待しておられるんです。

つまり、愛の告白には、必ずや質問が伴うということです。

イエス様は愛なる神でありますから、愛という行為、または本質は、相手への問い掛けにあるということをお聞きになるようによく知っておられます。

だから、「わたしはあなたを愛している」というその思いを、「あなたはわたしを愛していますか」という質問に込めて、愛しているからこそ、相手の応答を最大限に尊重しながらお待ちになるわけです。

聖書を創世記から黙示録まで読み通していきますと、神から人への愛の語り掛けと、その愛に応じて欲しいと正に恋焦がれるように待っておられる神の姿が記録されています。

そして、神の愛に中々応えられない、応えようとしなくて人の姿が描かれています。

神の愛に生きることこそが、人間が人間らしく生きることであるにもかかわらず、神の愛よりももっと刺激的な面白い何かがあるかのように彷徨っている人の姿が聖書の最初から最後まで描かれているため、聖書を読むと意外に苦しい思いになったり、怒りを覚えたり、残念や失望を覚えることがあります。

でも神様は変わらず、最後の最後まで、愛の質問をされます。

イエス様は、今日を生きる私たちにも、ペテロへの質問と同じように質問されます。

「あなたはわたしを愛していますか。わたしはあなたを愛しているのに…」

「あなたはわたしを愛していますか。わたしはあなたを愛しています。」

「あなたはわたしを愛していますか。わたしはあなたのことを本当に愛して

います。」

イエス様の私たちへの愛の告白を悟りたいと願います。

この愛の告白を信じられることを願います。

Part Three

クリスチャンは神さまを信じていますが、私たちクリスチャンが神様を信じる時、神の言葉のすべてを信じなければならないわけですが、大きく分けて二つのことを信じるのが重要なんだと思います。

一つ目は、「主なる神さまは天地をお造りになられた全能の神であられるお方だ」ということです。

使徒信条でも、「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」と告白しますが、これはとても重要な告白でありますし、私たちの信仰告白の第一になるものですよね。

「私たちの信じる神様は、天地万物の造り主であられる神である。私のアバなる父ちゃんなる神様は、この世界をお造りになられた全能な方なんだ！」

最も大事な告白です。

そして二つ目、これと同じように大事な告白が、「その神が、私を愛しておられる。私を愛しておられるがために、独り子主イエス様を十字架に架けるまでされた。」

これも、とても重要な信仰告白です。

と同時に、「神様が私を愛しておられる」という信仰は、強力な人生における力となります。

人にとって、愛されているという確信以上に力になるものはないでしょう。

海外のドキュメンタリー番組で、ある牧師夫妻が不妊治療に取り組むのですが、流産を繰り返し子どもが与えられることがなかったので、祈りの内に多くの子どもたちを養子として受け入れ育てるという姿を伝える番組がありました。

そのご夫妻が我が子として迎えた子供たちは、他の人たちが養子として受け入れようとしない子どもたちでした。

その中の一人は、生まれつき足に障害のある子でしたが、毎日その足をご夫妻は手でマッサージしてあげたそうです。

すると、その子は、やがてアイスホッケーの選手になっていきました。

またもう一人の子供は、境界性知能と言いましてIQが75で、知的障害ではないけれども、そのIQ以下では社会生活を自立して営むのが難しく、そのIQ以上ならば社会生活を自力で営むことが出来る境界知能の子どもでした。

しかもその子は、養子として迎えられた先で2回とも上手くいかずに、傷つき、大人に対する信頼なんか全くなく、心もすさみ、境界性知能ですので学校の成績もよくなく、本当に大変な育児でした。

ところが、この牧師ご夫妻お父さんお母さんの愛の前に、その子の頑なさが瓦解していきます。

愛を知ったその子は、不思議と勉強も良く出来るようになり、学年一番の成績を取ることもありました。

愛がその子の知能をも上げたのです。

もちろん、先天的な障がい等もありますが、虐待を受けたり、愛されないで育ったりすると、知能ばかりか、健康状態や身体能力までも劣ってしまい、心もピリピリ、ギスギス、オドオドしてしまふことがあります。

SIB(Social Impact Bond)という元タイギリスで出来た制度なのですが、行政機関と民間が協力して、社会問題を解決するというプロジェクトがあります。

このプロジェクトの大きな特徴は、民間団体が社会問題になっていることを解決するための具体的なプログラムを提案をして取り組んだ時、もし成果が出たらその費用を行政が全額負担し、しかもその成果に見合った報奨金まで出す。

でももし成果が出なかったら、行政からの支援の費用はびた一文たりとも出ないというものです。

そして、先程の牧師ご夫妻のドキュメンタリーを見て、インスピレーションが湧いたとある教会のとある牧師が、この **SIB** を用いて、境界性知能の子どもたちを3年間ケアし、社会的自立が出来る支援プログラムを起こしてみようと考えました。

そこで、そのプログラムに関わって下さる職員・教師として働いてくれる方々を募集するのですが、行政が介入しているプロジェクトなので、クリスチャンだけに絞って募集するわけにはいきませんので、当然宗教的な区分など一切設けずに募集を掛けました。

すると不思議なことに、その働きに携わりたいと思って応募してきた方々は全員がクリスチャンでした。

ならば、共通項が出来るわけです。

「子どもたちを愛する」ということでした。

祈りながら、キリストの心で仕え、愛そうと努めました。

その中でも一番大事にしたのが、一人の一人の子どもたちを抱きしめてあげることでした。

というのも、この働きを考えた牧師自身が、小学校1年生の頃に、毎週のように温かく抱きしめ迎えてくれた教会学校の先生によって、劣等感が癒されたご経験があったからなんです。

そうして、3年間この支援プログラムがなされるのですが、とても上手く行きました。

結局3年間に使った費用、日本円にして1億円の元金を行政から支払ってもらい、しかも3千万円の報奨金までもらうことになりました。

愛された子供たちが、抱きしめられた子供たちが、実際が変わっていったん

です。

体も、精神も、知能も、心も、ギスギス、ピリピリ、オドオドしたところから、変わっていきました。

欠けだらけの人間の愛でも愛した時、その人が健康になるのですから、ましてや神の愛を悟り、イエス様の愛を信じられるならば如何程でしょうか？

Conclusion

私たちの罪を贖うために十字架に死なれ、そして死より復活されたイエス様は、今も私たちに、「あなたはわたしを愛していますか。あなたはわたしを愛していますか。あなたはわたしを愛していますか」と質問して下さいます。

その愛を信じ、その愛を悟るならば、それが私たちの力となります。

そしてペテロのように、「私はあなたを愛しています」と答える真に幸いな生き方を生きたいと願います。

愛するということは、「ずっと一緒にいたいということ」、そして、「私が最も大事にしているものをもったいぶらずに献げられること」だと思います。

イエス様は、そうでした。

ならば、私たちはどうでしょうか。

お祈りいたします。

祝祷：イエスは言われた。「あなたはわたしを愛していますか。」